

# 乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.60

2019.5

## ステレオガイド下マンモトーム®生検とは？

### 「石灰化」とは？

マンモグラフィ画像における良悪性の鑑別が必要な所見には、“石灰化(図1)”、“腫瘍”、“その他の所見”があります。これらの所見は全てが悪性というわけではなく、良性や異常がない場合も多くあります。これらの中で石灰化は、カルシウム沈着が原因で発生します。石灰化の精密検査では、良悪性の判断が難しい場合も多いため、経過観察で石灰化の悪性度が増していくか否かを追跡することがよくあります。その場合、良悪性の判断に数か月から数年の期間が必要であり、悪性かもしれないという不安を長期間抱えたままとなります。その中で、石灰化の形状や分布に基づいた判断によって、ステレオガイド下マンモトーム®生検を用いて、石灰化所見を含んだ組織を採取して病理検査を行い、早期に良悪性の診断を行うことがあります。

### 「ステレオガイド下マンモトーム®生検」とは？

ステレオガイド下マンモトーム®生検(正式名称はステレオガイド下吸引式針生検)(図2)は、乳房の局所麻酔後に直径4mm程度の針を穿刺し、先端側面の小窓から石灰化を含めた乳腺組織を吸引して採取します(図3)。採取する石灰化は微小であるため、マンモグラフィのステレオ撮影を用いて石灰化の位置を3次元的に確認しながら検査します。検査は1時間程度で、外来での検査が可能です。狭い範囲の石灰化を採取する場合、全ての石灰化が採取されてしまい、検査後に採取場所の特定ができなくなるため、必要に応じてハイドロマーク®という大きさ1mm程度のチタンを留置します。この検査は外科的な生検と比較して、はるかに傷も小さく(4mm程度)、痛みも軽く、より正確な診断ができます。検査における体位はうつ伏せ、座位、あるいは側臥位で行われますが、当院ではうつ伏せで行える装置(図2)のため、体の負担やストレスが軽く、気分が悪くなることが少ないというメリットがあります。そして当院のステレオガイド下マンモトーム®生検は、これまでに500例以上の豊富な検査実績があります。

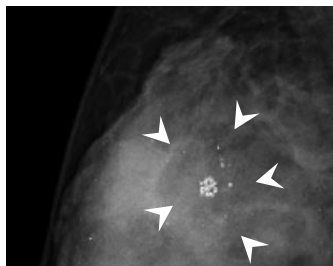


図1) 石灰化のマンモグラフィ画像



図2) ステレオガイド下マンモトーム®生検

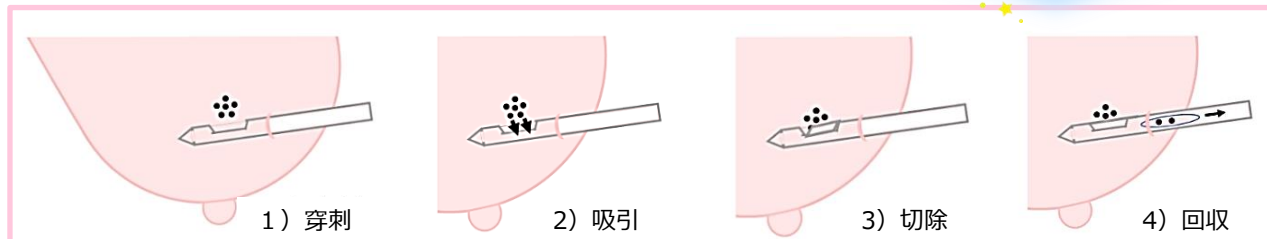


図3) 採取手順

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師

矢竹 秀徳

市立具塚病院

TEL : 072-422-5865